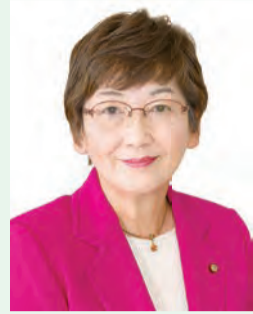


住み続けられる“団地のまちづくり”を



佐々木とも子市議

佐々木とも子市議は、山崎団地のモノレール延伸を見据えたまちづくりについて質問。都市づくり部長は、2024年度から「地区まちづくり構想」を改定するため、自治会などで構成する検討会や団地住民の意見を聞くワークショップを開催し、対話を重ねながら進めていくと答弁。東京都の「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業（補聴器の購入補助など）」の活用を求めると、「詳細が明らかになったところで内容を確認していく」と答弁。災害対策では、避難所にジェンダーの視点を取り入れる、建設予定のバラリーナを福祉避難所にする答へました。



団地再生が予定されている山崎団地

小中学校プール削減見直しを



細野りょう子市議

細野りょう子市議は、教育委員会が発表した小中学校のプールを屋内化、集約して3分の2削減する「プール整備方針」について質問し、学校プールの存続を求めました。教育部長が「老朽化で建て替えが必要。猛暑でも授業ができる屋内化を進める」と答弁。学校プールのあり方について学校現場や子どもの声を十分聴くよう求めました。また、障がい者の通院交通費補助の改善（対象の拡充、チケット制にするなど）を求めました。福祉部長が、「限られた予算の中で、当事者の要望、環境の変化、他市の実施状況など、配慮しながら研究する」と答弁しました。



屋上にある町1小プール

鶴川地域の学校統廃合計画の凍結を求めて



田中美穂市議

田中美穂市議は、鶴川地域の学校統廃合計画において、鶴川2小の仮校舎建設がなくなり、スケジュールや児童の移動に大きな変更が生じている、計画を凍結して児童、保護者などから意見を聞くよう求めました。野津田公園の湿生植物園へのスケートパーク整備計画において、設計のやり直しで大幅に計画が変更されることを明らかにし、関係者への早期の説明を求めました。都市づくり部長は「機会を捉えて説明する」と答弁。また、上の原原っぱへのバス転回広場整備について、利用者の「貴重な草を次世代にそのまま残したい」などの声を紹介し、計画撤回を求めました。



野津田公園上の原原っぱの貴重な草地

町田駅周辺再開発で森野住宅住民説明会を要求



殿村健一市議

殿村健一市議は、町田駅周辺4地区の再開発事業について質問。D地区・公社森野住宅（400戸）住民の住居確保と説明会実施を求めたところ、公社と相談し、情報提供すると答弁。芹ヶ谷公園の（仮称）国際工芸美術館工事は、入札が3度失敗し物価高騰や職人不足、市民が反対している計画は見直すべきだと要求しました。開通した町田都市計画道路3・3・36号について、信号機が廃止、移動した市民病院東交差点の交通安全対策など地域住民の声に基づく対応を要求。部長は、東京都と連携して対応すると答弁しました。



町田都市計画道路3・3・36号接続で廃止・移動した市民病院東交差点信号

8.4haの町田駅周辺再開発に、お金は大盤振る舞い!

【公共施設再編】と【コンパクトシティ化】で地域から学校も団地もなくなる!

町田市は、財政難を理由に、学校統廃合や図書館削減などの公共施設再編をすすめています。一方、多摩都市モノレール延伸と連携して、町田の歴史をつくってきた団地を集約し、町田駅周辺の大規模再開発や市民の声を無視した芹ヶ谷公園、野津田公園の再整備で、「にぎわいとエンタメ」のまちづくりを行う予算を計上しました。50年ぶりの町田駅周辺再開発（下図、8.4ha）の総事業費は?との質問に、市長は、

「未定だ」と無責任な答弁（前回の再開発は、4.1haで715億円）。「コンパクトシティ化」による都市機能の集約で、地域から学校も団地（木曾山崎団地など）もなくなっていくとしています。大型開発による「人集め」のまちづくりではなく、町田市民の暮らし、福祉、教育、環境第一のまちを。だれもが住み続けられるまちづくりを求めます。

本計画の対象エリア
町田市中心市街地まちづくり計画対象範囲

C地区 森野・西友、パリオ周辺、0.5ha

市民ホールのように利用できるの? 生涯学習センターと別の教育文化施設って何?

ライブホール（演劇、ミュージカル）やアートギャラリー、世代を超えて学べる教育文化施設が入った民間の再開発ビルをつくる計画。市民ホールのように市民が利用できるのか不安です。町田センタービルの中にある市の生涯学習センターと、新たな教育文化施設との関係はどのようになるのでしょうか。公共施設の再編や民間活力導入によって、市の教育文化事業と市民の学習する機会が縮小されてはなりません。



バスセンターの上の町田第一歩道橋と大型店舗

D地区 森野住宅周辺、5.5ha

400世帯の森野住宅が大ホールに! 団地住民はどこに?

D地区が先行エリアに。現在、約400世帯が生活する公社森野住宅が大半を占める区域に、若者が集まるエンタメ施設（音楽ホールやスポーツ施設）と駅前広場をつくる。住まいは、新しいライフスタイル（住みながら働くなど）対応の環境に変える計画。再開発によって森野団地はなくなり、住民は住み慣れた地を追い出されようとしています。市民の「住み続ける権利」の保障は最優先です。



D地区・400世帯が生活する公社森野住宅

B地区 森野・小田急町田駅北口周辺、1.4ha

巨大シネコンビルが! 「まほろ横丁」は大丈夫?

百貨店の大駐車場周辺の駅北口に、9~10スクリーンを持つシネマコンプレックスなど巨大な再開発ビルをつくる計画。「金太郎アメ」のような都市間競争ではいずれ魅力はなくなります。映画「キネマの神様」ように、多世代の市民に愛される映画館こそ求められています。北側の「まほろ横丁」にはたくさん飲食店が。西側には昭和の時代からがらびっている立ち飲みのお店もあります。再開発によって立ち退きが出るお店が出る心配はないのでしょうか。



百貨店の大駐車場、北側には「まほろ横丁」が

A地区 原町・モディ、東急ツインズウエスト周辺、1.0ha

バスターミナルとモノレール駅、3駅の要所に大店舗がひしめく

モノレール駅と接続するビルの低層階にはバスターミナルを集約。現バスターミナル、センターとの関係はどうなるのか。再開発の容積率アップで、大型商業店舗の売り場面積などが拡大し、周辺の商店街に影響が及んで困るとの声が出ています。「絹の道」や「二・六の市」の歴史の中でつくられてきた原町田の商店街。仲見世商店街や乾物屋さん、和菓子屋さんなど、市民に愛される個性あるお店や商店街への支援こそ必要ではないでしょうか。



町田駅前の大型店舗とペDESTリアンデッキ

町田駅周辺再開発推進計画(案)の開発推進地区(A, B, C, D地区)より